

なはーとダイアログとは

アーティストと観客や参加者が様々なことから一緒に話し合い、交流し、学び合う場所になることを目指すための企画です。

令和6年度は、なはーとの原点に帰り、その役割を考えるシンポジウムや、視覚障害を持つ方々との体験型ワークショップ、市長とアーティストの対話、真和志高校で高校生とアーティストがキャリアや創作、人生について語り合うアウトリーチなどを実施しました。

なはーとは、これからも文化芸術の創造と鑑賞、継承と発展の場であるのみならず、元・久茂地小学校という立地の歴史をふまえて、劇場と地域をつなぐイベントシリーズ、「なはーとダイアログ」を開催していきます。

あなたのご参加をお待ちしています！



なはーとダイアログは、より多くの方と対話の機会をつくれるよう、手話通訳とヒアリンググループ席をご用意しています。

※なはーと開催の場合。会場や企画によって異なる場合があります。



手話通訳あり



ヒアリンググループ席あり

那覇文化芸術劇場なはーと

〒900-0015
沖縄県那覇市久茂地3-26-27
TEL：098-861-7810
FAX：098-861-7870

開館時間：午前9時～午後10時（受付19時まで）
休館日：毎月第1・3月曜日（祝日又は慰霊の日は開館、直後の祝日でない日休館）
年末年始（12月29日～1月3日）

なはーとダイアログ2024-2025

主催：那覇市
企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと
株式会社さびら
イラスト：nami
フライヤーデザイン：西永怜央菜
記録写真：北上奈生子、平良信実
記録映像：福地リコ、中谷駿吾、黒澤佳朗

令和6年度なはーと文化芸術事業

なはーと ダイアログ

開催レポート

「なはーとダイアログ」の最新情報は
ウェブサイト・SNSでチェック！

なはーとウェブサイト
<https://www.nahart.jp/>

なはーとInstagram
@nahart2021

なはーとダイアログ Instagram
@nahartdialogue



イラスト：nami

なは一とって なんのためにできたんだっけ？

基本構想の段階から計画に携わっていた金城さんは、休みを使って県外各地の劇場の視察や、勉強会に参加したことも。「市民のための劇場」を実現するべく、全力で動いてきた様子が伝わりました。

渡久地さんは当初、「那覇市民会館のアップデート」という印象だったそう。しかし、何度も対話していく中で、職員の思いを受け取り「街に開かれた劇場になるかもしれない」と、周りを巻き込み、開館前のPRイベントを手掛けた経験なども共有いただきました。

「文化芸術によって、1人ひとりの心豊かな生活に貢献していくこと」がなは一の目標。何かすぐに役立つというわけではないけれど、「好きだから」文化芸術活動を楽しみにして観に来る、表現する人たちが沢山います。「そうした文化芸術活動を通して、自分たちの生活をより彩るものにしていく場になるために、なは一とはできたのだ」というお話にまで広がりました。

参加者の声

- なは一の成り立ちを詳しく知れて良かった。行政、劇場、市民が意見交換できる場になっていたのも良かった。(30代、那覇市在住)
- 市民が意識を持って関わり、大切にしていけるよう参画応援していきたいと思った。(50代、那覇市在住)



2024年7月19日(金) 開催

ゲスト

- 金城 聡 (那覇市まちなみ共創部)
- 渡久地 圭 (一般社団法人ビューローダンケ代表)



未来のアーティストは どんなまちに住みたいのか？

第3回では私たちの生活と文化芸術のつながりを改めて確認しつつ、豊かな那覇市の将来像を話し合いました。

羽藤さんの基調講演では、地域文化の編集装置「アーバンパラタス」を作ってみてはどうかというのが、那覇市への提案。アパタス=肺。都市において「深呼吸できる」ような場所や機能、可能性を持つ場所、という感じでしょうか。

泉川さんの所属していた共同アトリエでは、家でも学校でも職場でもない、余白のような場所があったからこそ、今でも制作が続けられていると感じているそう。

北上さんからは、自身の生い立ちや日々の違和感を踏まえた上で、沖縄復帰40年写真展「okinawa 0 point」に参加した時のエピソード。平和通りの空き店舗を借りた展示会場は、商店街の通路のようになって、敷居が高くなく、アートに関係ない人もふらっと入れる場だったそうです。

参加者の声

- 行政/市長とアーティストの対話ができるまちはステキだなと思いました。これからは楽しみ。(30代、那覇市在住)
- 市長とアーティストが直接意見交換できる機会を定期的に作る仕組みづくりが素晴らしい。(50代、東京都在住)
- アーティストの皆さんの率直な意見を聞いたことがとても良かったです。(30代、那覇市在住)



2024年11月24日(日) 開催

ゲスト

- 泉川のはな (画家)
- 北上奈生子 (写真家)
- 羽藤英二 (東京大学大学院工学系研究科教授)

コメンテーター

- 知念 覚 (那覇市長)



あつまれ！みんなの遊び場 - 体験を共有する未来の劇場 -

ゲストの福里先生が1番実現したかったことは、「何かしらの障がいを持っている人たちの“お話”を聞くだけではなく、お互いの違いを知り、一緒に何か形にする場」をつくること。

そのため、「触覚」をもとに、さまざまな経験をし、見えない中で、同じ経験を共有し、その経験が各自のようによって違って感じられたか共有する時間をもちました。

前半は、目の見えない状態で、お互いの肩に手を置くなどして支えながら、歩いてみたり、クイズに答えてみたり。後半のゆんたくアート鑑賞では、彫刻作品に触れながら、作品を観察したり、感想を交換しました。

視覚障がいを持っている参加者と、持っていない参加者それぞれ作品の受け取り方の違いを共有しながら、自由に鑑賞を行っていたのが印象的でした。

参加者の声

- 伝えようとする思いやり、気づこうとする優しさがあれば、アート・芸術鑑賞をより楽しむことができると思った。(50代、那覇市在住)
- これまでの生活で感じたことのない感覚や考え方に出会えてとても良かったです。(20代、熊本県在住)



2024年9月23日(月・祝) 開催

ゲスト

- 福里 実 (沖縄県立沖縄盲学校 教諭)
- 李 栄淑 (ゆんたく鑑賞コーチ)

作品提供

- 平敷 傑 (彫刻家)



アーティストと話してみよう これからのアート、キャリア、そして人生

沖縄県立真和志高校を会場とし、授業の一環として開催した、初めての「おでかけダイアログ」！ 演劇、音楽、絵画や映像制作など、8名のジャンルの異なる県内出身アーティストをお迎えし、間近でお話を聞く形式で実施しました。

最初は全員集まったの自己紹介と活動紹介。これだけでも、ゲストそれぞれの個性と生き方が垣間見える濃い自己紹介となりました。後半はゲスト2名と生徒たちのグループに分かれたセッション。高校生活や卒業後、創作に関わる悩みや、仕事やお金のリアルな話、悩みの相談などのお話にまで広がりました。

好きなことを続けるコツや大切さ、学校や仕事と生活の兼ね合いなど、先輩アーティストから未来のアーティストへ経験を伝える、有意義な回になりました。

参加者の声

- 自分にはなかった考え方や迷っていたことに答えてくれて、とてもスッキリした気持ちや前よりも軽くなった気がします。自分にあったやり方を選んでいきたいです。(高校1年生)
- 色々なアーティストの話を知ることができて、とても参考になったし、自分の将来像が少し見えてきた。(高校2年生)



2025年2月7日(金) 開催

ゲスト

- 新垣七奈 (演劇ユニット多々ら)
- 泉川のはな (画家)
- 上地萌 (写真家)
- それもまたよし (画家)
- nami (アーティスト)
- HAYATO MACHIDA (アーティスト)
- U (アルカシルカ)
- 与那覇浩平 (映像ディレクター/フォトグラファー)

